



新高機能消防指令システム

皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より自治会活動に多大なるご理解とご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

6月の総会におきまして、36地区連合自治会長のご推挙を頂き、会長職を務めることになりました。歴史と伝統を重く受け止め、誠心誠意その責務を全うする所存でございます。

本会では、能登半島地震や近年の豪雨災害での経験を踏まえ、防災体制の強化を喫緊の課題と捉え、皆様の生命と安全を最優先に守るための取り組みに全力を注いでまいります。今年度から行政と連携し、全単位自治会を対象に災害発生時の情報収集・伝達訓練を実施しております。実際に災害が起きた時に適切に対応できるよう、改善を続けながら防災体制の強化に努めてまいります。



会長あいさつ

高岡市連合自治会
会長 宇波 真一郎

また、人口減少、少子高齢化が進む中で、社会のあり方は大きく変化し、地域活動においても、担い手不足や多様な困りごとなど様々な課題が顕在化しています。各種団体との連携をさらに深め、地域の課題は地域で解決する多機能地域自治の導入などを通じて、地域活動の効率化と負担軽減に向けた取り組みを進めながら、活力ある地域活動を推進してまいります。

自治会活動は、皆様一人ひとりのご理解とご協力なくしては成り立ちません。地域の未来を思う皆様の力を結集すること、より活力ある地域を築き上げることができると思っておりますので、これまで以上のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。まして、挨拶いたします。

役員・会員の紹介 (令和8年度)



会長
宇波真一郎(定塚)



副会長(総務)
藤田 晴久(西条)



副会長
矢竹 有至(福岡)



副会長
森田 和夫(福田)



副会長
中井 隆行(二上)

○印は新役員
★印は新会員



理事(会計)
腰 雅信(野村)



理事
小栗 久雄(二塚)



理事
月安 幸三(津津)



理事
杉本 孝之(国吉)



理事
江守 裕(牧野)



理事○★
山崎 泰邦(伏木)



理事
道谷 悦一(中田)



理事
村上 祐崇(大滝)



監事
石坂 守(能町)



監事○
水上 哲(小勢)



監事○
佐伯 正則(醍醐)



相談役
杉江 幸男



相談役
浦田 一郎



相談役
角玄 富雄



会員
山崎 勝久(平米)



会員
北林 和正(下関)



会員
鍋谷 博秀(博勢)



会員
西田 公信(横田)



会員
三本松誠身(川原)



会員
山口 泰祐(成美)



会員★
浦野 好司(守山)



会員
関口 謙(佐野)



会員★
若林 博(立野)



会員★
安田 善治(東五位)



会員
澤田 哲郎(石堤)



会員★
連澤 清幸(古府)



会員
増井 修(太田)



会員★
宮本 正弥(戸出)



会員
玉井 邦昭(北般若)



会員
奥村 茂夫(堤戸)



会員
中野 勝二(山王)



会員★
澤越 正之(西五位)



会員★
田畑 隆(五位山)



会員
小山 孝一(赤丸)

編集後記

◆ 去る6月5日に、高岡市連合自治会通常総会が開催されました。今回は、役員改選の年であり、宇波新会長のもと、役員・会員一同、複雑化する地域課題に取り組む決意をあらたにしました。

◆ 本稿では、地域活性化の取り組み事例として、地区防災計画、多機能地域自治や、若者地域活動支援事業について、ご紹介しました。各地域でも、自ら課題解決を行うために、これらの事例を参考にしたいと考えています。

◆ 結びに、ご多忙のところ、取材等に応じていただきました方々に深く感謝申し上げます。

編集委員 中井 隆行(記)
腰 雅信
月安 幸三
村上 祐崇

令和8年度

通常総会の開催

6月5日、ホテルニューオータニ高岡において通常総会が開催されました。

総会では、令和7年度事業報告・収支決算報告、役員の改選、令和8年度事業計画(案)・収支予算(案)が審議され、原案どおり承認されました。

令和7年度の主な活動内容及び令和8年度の事業計画は次のとおりです。

令和7年度に実施した主な事業

- ・通常総会開催 (5月)
- ・危機管理課との意見交換会(7・8・1・2月)
- ・市当局との懇談会 (8月)
- ・「市連自治会だより」発行 (9月)
- ・県西部地域自治会長会意見交換会 (10月)
- ・全国自治会連合会富山県富山大会 (10月)
- ・県外研修視察 (11月)
- ・高岡市に対する要望書提出 (11月)
- ・議会傍聴(高岡市議会12月定例会) (12月)
- ・富山県知事に対する要望書提出 (12月)
- ・新春懇談会 (1月)
- ・議会傍聴(高岡市議会3月定例会) (3月)

令和8年度の主な事業計画

I 高岡市連合自治会は、市勢の発展と住民が安心して暮らすことのできる地域社会づくりに寄与するため、各地区連合自治会の連携を基に、行政及び関係団体との相互協力・協調を図り、少子高齢の進展に危機感

を持ちながら持続可能な地域活動を目指して、次の取り組みを行います。

II 事業内容

- ①防災体制の強化
- ②高岡の魅力を活かしたまちづくりへの提言
- ③防犯・交通安全の推進
- ④地域福祉の増進
- ⑤環境保全・美化運動の促進
- ⑥持続可能な地域活動の実現に向けた取り組み

栄誉に輝く

■総務大臣表彰

角玄 富雄 氏(戸 出)

■全国自治会連合会表彰

宇波真一郎 氏(定 塚)

■富山県部門功労表彰

宇波真一郎 氏(定 塚)

■高岡市功労者表彰

前田 義弘 氏(東五位)
道谷 悦一 氏(中 田)
佐伯 正則 氏(醍 醐)
広地 功信 氏(小 勢)

■富山県自治会連合会会長表彰

角玄 富雄 氏(戸 出)
坂 廣志 氏(伏 木)
前田 義弘 氏(東五位)
牧野 光男 氏(古 府)
谷 晴雄 氏(守 山)
伏江 努 氏(立 野)

防災体制の強化の取り組み

〈情報収集・伝達訓練で災害に備える〉

高岡市連合自治会は、令和6年度より「防災体制の強化」を新たな活動の柱と位置づけております。近年激甚化する自然災害から住民の生命と暮らしを守るため、日頃からの備えを強化することが急務であります。

こうした背景のもと、市危機管理課と連携し、令和8年6月25日に「水害時の情報収集・伝達訓練」を実施しました。この訓練は、激甚化する自然災害に対応するため、地域における災害時の連絡体制を確認・検証し、被災状況を迅速に市へ共有することで、適切な被災者支援へと繋げることを目的としています。

訓練では、市から連合自治会、各単位自治会へと情報伝達を行い、浸水被害などの状況を集約し市へ報告しました。これは、災害時に地域が「自らの情報」を主体的に集め、市と共有するための重要な訓練です。

今回の訓練は、実際に起こりうる災害に備えるための課題の洗い出しの機会であり、訓練で得られた課題や改善点を、今後の各地区の防災訓練や地区防災計画などに反映してまいります。各地区での単位自治会との連携を一層強化し、地域全体の防災力を着実に底上げしていく所存です。

地域の皆様一人ひとりの防災意識の向上と、いざという時の対応判断、そして地域内での助け合い(共助)こそが、災害から命を守る最大の力となります。今回の訓練を契機に、皆様と共に安全で安心して暮らせる地域を築くため、今後も積極的に防災体制の強化に取り組んでまいります。

地域課題に挑む 特集①

「伏木地区防災計画」策定の取り組み

伏木校下自治会連絡協議会長

山崎 泰 邦

伏木地区では、能登半島地震の経験を踏まえ、地域の自助・共助の力を高めることを目的として、地区防災計画の策定に取り組んできました。

令和7年9月1日、防災の日に「伏木地区防災計画作成委員会」を発足し、伏木校下自治会連絡協議会、伏木防災士の会、伏木地区民生児童委員協議会、伏木赤十字奉仕団、伏木消防団から委員を選出して、地域の多様な意見が反映される体制を整えました。



委員会では、計6回の会議を開催し、伏木地区の災害リスクや避難体制、要配慮者支援のあり方などについて議論を重ね、伏木地区防災計画の骨子案をまとめました。あわせて、高岡市のハザードマップに基づき、想定される災害が各自治会に及ぼす影響を一覧表として示しました。

今後は、「単位自治会防災計画」の作成に着手し、最終的には住民一人ひとりの災害毎の「マイ・タイムライン」の作成を目指します。そして、これを基に避難訓練を実施し、防災計画に基づく避難行動が身に付くまで訓練を継続していきます。

また、高岡市作成の各種ハザードマップを精査したところ、災害種類によっては危険性が極めて低い自治会も存在することが分かりました。そこで、避難の必要がない自治会には避難所の運営側に回っていただくなど、地区の絆、団結力を磨き、災害に強い、安全で安心して暮らせる伏木地区を目指してまいります。

地域課題に挑む 特集②

地域の将来を見据えた組織づくり

国吉校下連合自治会長

杉本 孝 之

国吉校下には17の自治会がありますが、人口減少などの影響から10数世帯から200世帯までと大きく差があり、自治会役員や各種団体の成り手不足など、これまでと同様の運営が困難で、危機感を持っていました。自治会や各種団体が連携し、効率化を図りながら地域課題の解決に取り組む「多機能地域自治」の必要性を感じ、その仕組みを取り入れた「地域づくり協議会」の設立を目指しています。

令和6年には今後の活動に反映することを目的に、中学生以上を対象とした住民アンケート調査を実施しました。9割を超える回答率で、改めて住民の強い思いを知ることができました。また、令和7年には座談会を3回開催し、幅広い年代から様々な提案を受けることができ、非常に有意義な時間となりました。

これらの意見・提案を踏まえ、現在は設立準備委員会を立ち上げて議論しています。17の自治会を8つの分団にグループ化して運営する方法や、各種団体の活動整理など、効率化を進めながらもいかに充実した内容にしていけるかを考えています。活動を見直していく中で、若い世代の委員からは「世代を超えて交流することが、支え合いの気持ちを育む」という意見が出るなど、今後のヒントやアイデアが生まれてきていると実感しています。

持続可能な地域活動の確立を図るため、今後も話し合いを続けながら令和8年度中の設立を目標に取り組んでいきます。



地域課題に挑む 特集③

東五位の冬まつり

東五位地区連合自治会長

安田 善 治

東五位地区連合自治会は、「人が子どもたちを楽しませる」方針のもと、若者地域活動支援補助金を活用し、事業に取り組んでいます。



最初に検討したのは事業を進めるための組織編成です。14の自治会を室内遊びやグルメなど4つのチームに分け、連合自治会の副会長をリーダーに充てて役割を明確化しました。また、若い世代が企画から気軽に参加してもらえよう、各自治会から「顔や名前がわかる身近な人からの声かけ」を実施することで、安心さと気楽さを感じながら活動してもらえよう工夫しました。

令和7年の2月に旧東五位小学校で開催した「東五位ウィンターフェス」は、十分な雪量と晴天に恵まれ、モルック・eスポーツ・手作り風などの室内遊びや、ふるまい鍋・おにぎり・焼き芋などのグルメコーナーが大盛況で、地元企業の協力で完成した雪の大滑り台はインスタグラムなどのSNSでも話題になりました。また、令和8年2月に地域交流センターで開催した「東五位にゃんフェス」は、猫耳カチューシャ作りや猫型クッキー作りなど、若い世代のアイデアを盛り込んだ企画が好評で、運営スタッフも猫耳をつけて会場を盛り上げました。イベント当日は若い世代から「楽しそうだから手伝いに来た」という嬉しい声も聞かれました。イベントを通じて、世代を超えた「顔と名前がわかる関係」を育みながら、今後も活動を続けてまいります。